

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 ( I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制 (運営協議会・連絡協議会の構成員等)        教育委員会が主催する会議として、年度初め1回(各校の日本語教育担当参加)、毎学期1回(日本語初期指導教室指導員、外国人児童生徒指導員、適応指導教室設置校日本語担当教員参加)に担当者会議を開催し、情報共有を行っている。</p>
<p>2. 具体的取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築        日本語初期指導教室 「えがお」 (平成29年度につつじが丘小に設置)        指導員配置 5日×7.5時間×35週…1名                          3日×7.5時間×35週…2名 ← 令和元年度から1名増                          3日×5.0時間×35週…1名 ← 臨時的に増</p> <p>(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施        ・「日本語初期指導」に使うためのプリント課題等の見直し        ・日本語適応指導教室「さくら」の教員と連携した指導</p> <p>(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣        ・指導員の増員を行い、新しい体制を構築した。        (内訳)・コーディネーター1名 (教員経験者・日本語指導ボランティア) 3日×7.5時間                  ・指導員1名 (ポルトガル語) 5日×7.5時間                  ・指導員1名 ※新規 (教員経験者・日本語指導資格あり) 3日×7.5時間                  ・指導員1名 ※臨時的 (日本語指導ボランティア) 3日×5.0時間        ・学校教育課(指導主事、庶務)、日本語指導教室「えがお」指導員、日本語適応指導教室「さくら」教員で、知立市立知立東小学校にある燕子花教室を視察し、運営等についての意見交換を行った。        ・学校休業期間中に、課題の見直しを行うとともに、5月中旬から、zoomによる指導を試みた。</p> <p>(12) 成果の普及        ・教育委員会のホームページに概要と成果を公表        ・知多市日本語指導担当者会にて情報を共有</p>
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築        本年度、3名配置とし、時間数を増やしたことで、個別に対応する時間数を増やし、一人一人応じた適切な指導を行うことができた。また、コロナ禍で例年よりも外国籍児童生徒の転入が少なかったため、一対一の指導も行うことができた。来年度は、児童生徒数の増加が見込まれるため、指導員の時間数をより多く確保して対応していきたい。</p> <p>(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施        「初期指導」に使うためのプリント課題を見直したことで、よりスムーズに日本語指導を行うことができた。日本語習得力に差があり、1年間では修了が難しい児童もいるため、1年を超える場合は、日本語適応指導教室「さくら」に引き継ぎ、日本語指導も同じ課題で継続的に行っている。</p> <p>(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣        えがおの指導員の時間数を増やすことで、日本語の習得レベルに合わせて一人当たりの時間数を増やし、1年間での修了を目指したい。今後は、児童生徒数が増加した場合に備え、グループでも効果的に日本語指導を行えるシステムを構築していく必要がある。</p>

(12) 成果の普及

教育委員会のホームページに公表し、市内だけでなく市外の方にも「えがね」の活動を知らせることができた。自動翻訳機能では正確な翻訳にならないこともあり、日本語のみでのホームページでは伝わりにくいことがあった。

担当者会にて情報を共有したことで、日本語初期指導で使用している課題等を周知でき、各校で使用したいとの要望を聞くことができた。今後は市内の教員がいつでもプリント等を活用できるように、データの共有方法を構築したい。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	100%	100%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	78%	100%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

- ・今後も、指導員の時間を確保していくとともに、日本語指導を専門に行える指導員を配置し、より効果的な日本語初期指導が行えるようにシステムを構築していきたい。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。